

平成23年度笠間市行政評価外部評価委員会 議事録

1. 日 時 平成23年8月31日(水)
2. 場 所 笠間市役所本所3階 全員協議会室
3. 出席者 委 員 井上 操
岡野 博之
赤津 長弘
大関 賢一
中澤 まさ
横須賀 徹
所管課 岡井産業経済部長, (商工観光課) 河原井課長, 鈴木課長補佐, 菅井主査
事務局 小松崎市長公室長, (行政経営課) 野口課長, 石井課長補佐, 福嶋主査, 高松係長, 鈴木係長, 石塚主事
4. 傍聴者 2名
5. ヒアリング事務事業 市街地活性化事業
6. ヒアリング内容

【事業説明】商工観光課

【事前質疑回答】商工観光課

- Q 平成18年度から5年間の各地区毎(笠間・友部・岩間)の空き店舗数・開店数・閉店数の一覧表を作成してください。
- A 市全体の空き店舗数は市も商工会でも把握しておりませんので、正確な数字は出せません。
- Q 参考までに、何にいくら使ったのかの明細の提出をお願いしたい。
- A 別紙資料を配布してありますのでご参照してください。

【質疑議論】

○委員

空き店舗の数は把握していないのか。

○商工観光課

旧笠間の門前通りの周辺だけについては持っています。岩間についても若干の数字はあ

りますが、市全体としてここが空いている、ここが開店しているという数字については、商工会の方でも掴んでいないので、数字としては出せないということです。

○委員

例えば、岩間の駅前通りで、こういう店舗をしていて、それが閉店したとか、そのような資料は全然なく、この市街地活性化事業をしているのか。

○商工観光課

岩間の駅前に関しては、旧岩間の商工会で、合併する前に、事業を行うに当たって空き店舗を活用したいということで始まったものですから、岩間の駅前から355号線の旧道といますか、すずらん通りですが、その部分については調査をしています。数については、今資料がないものですから。

○委員

その調査をベースにして、この活性化事業というものをしているのかどうかということ。岩間だけじゃなくて、友部にも空き店舗はあるし、店舗をやめて駐車場にしたところが友部の駅前にも沢山ある。それをきちんと調査してあるのかどうか。

○商工観光課

笠間地区に関しては、この事業を行うに当たって、合併前に中心市街地活性化法という法律に基づいて基本計画を策定して始まったものです。その後、商工会が改めて調査をして、中心市街地は門前通りを中心にしたという考え方がありましたので、門前通り周辺の空き店舗をいうことで調査をして15店舗、平成18年度の時点であったということです。

その後、15店舗を基本として、平成22年度に空き店舗が6店舗になり、開店したのが7店舗ということになっています。

ただし、そのあと空き地になったり、新たに空き店舗になったりとか数字が変動しておりますので、年度によってばらつきがあります。その点については、把握して実施しています。

○委員

今、外の委員が言われたことだが、事前質問でそれを求めた。重点的に取り組んでいるところで良いですと。すべてじゃなくて良いですと。

岩間の駅前だったら何店舗あって、何年度には空き店舗が何件あって、現在は何件だということ、開店したのがいくつだとか、そういう数字がほしかった。

事前質問で事務局の方にも言っておいたのだが、笠間だったら笠間の重点的に取り組んでいる数字を出してもらえば良いと。その数字が出てこないのはおかしいと思った。

○商工観光課

それは調べてあります。資料として、先ほど言ったのは笠間の分ですが、取りまとめてあります。空き店舗を調査して、空き店舗をどう活用していくかを検討した資料です。私どもの勘違いで、市内全域の空き店舗と勘違いをしてしまいましたので、今のような回答になってしまいました。

○委員

市街地活性化の市街地っていうのは、区域は決めてあるのか。

○商工観光課

以前の笠間地区に関しては決めてありました。今は各商工会と連携して事業を行っていますが、岩間に関しては、すずらん通り。笠間に関しては、門前通りを中心としたという言い方です。明確にここからここということではないのですが、ある程度の範囲では決定しています。

○委員

他のセクションというか、商工観光課だけの事業なのか。一緒に実施する課はないのか。

○商工観光課

都市計画課で行っています。稲荷門前通りの整備計画と合わせて、稲荷門前通りに関しては行っています。

○委員

中心市街地の活性化は、どこでも手を付けるが、すべて商工観光課でというよりは、とても広い意味がある。居住系とか、都市計画のハード的なものを含めて。商工観光課で扱うのは基本的にはイベントなどのソフト系ですね。これは、先程外部評価をした観光PR事業の延長線にしか見えない。

中心市街地の活性化というと、企画系が中心になるとか、都市計画系が中心になるというのがあり、そのうちのどの部分をどうするとか、行政全体で取り組む話が多いと思う。

この事業は、イベント系が中心で、商工観光課の責任ではないと思うが、笠間の市街地をどうするという形が、これではなかなか出し切れないのではないかと思う。

だから、そのためのことをもう一つ考えないと。商工観光に特色があるのはわかる。特色的には、商工観光の仕事が重要なのは分かるけど、笠間市としてどう取り組むかというときの姿が見えてこないと思う。

○商工観光課

ご指摘の通り、商業だけでは市街地の活性化というのは図れないというのは重々承知しています。

昨年、その前の年から、特に笠間地区に関して、商店街の景観を含めた道路の整備ということで、都市計画課と連携した形で事業を行っていました。

しかし、道路を整備するとなると、例えば交通規制の問題などで、商店街との話し合いが延び延びになることがあるので、成果として今のところ見えていない部分があります。

都市計画部門と一緒にハード部分も含めた形で、商店街、地元の方たちとお話し合いをし、計画を進めています。

○委員

笠間市の門前通りをターゲットとし調査をすると、各店舗が何に困っているのか、例えば駐車場が無いとか、アクセスするときの道路が悪いとか、いろいろな問題が出て来ると思う。イベントに偏って、わぁっとやっていたら人が来るだろうという活性化ではなくて、むしろ活性化っていうのは地力を付けることだと思う。

いわゆる地域の力、その地域の力がないから商店も成り立って行かなくて、みんなすべて終わりにしてしまうとか、よそへ行ってしまったりとか、本当の市街地活性化というのは何なのかというのを真剣に考えないといけないような気がするが、そういう観点からすると、どうしているのか。

○商工観光課

そのとおりで、まちを作るのはその地域であり、コンパクトなまちにし、中心市街地を生活拠点とすることが必要ではないかと思います。先ほど門前通りの話が出ましたが、道路の整備と合わせてまちの景観を作り、最終的にはお客さんを呼び込み、市街地が元気付いて生活の拠点として、そこに住み着くということが目的であると思います。それらの方法については、不足かもしれませんが、もう少し時間をかけていかなければならないと考えています。いろいろな意見も聞きながらしていかなければならないと思っています。

○委員

イベント的なものは一時的なものだが、やはり定常化して人を呼べるようなものが必要ではないかと思う。

それを考えると、役所の方が知恵を働かせることも、もちろん必要だが、一般の方からいろいろな提案とかを受け付けるような仕組みというのはあるのか。

例えば、私は商工観光課が行っている笠間ファン倶楽部の東京支部の方をしているが、そのメンバーなどと話し合うと、非常にいい案をでてくる、意見が沢山でてくる。

今この話題に出てきているのは、笠間の門前通りと岩間の駅前の話だが、例えば友部の

駅前には市の駐車場があるが、あれは最悪だと言っている。なぜかと言っていると、あそこに駐車場を作ってしまったら、あそこに車を止めて、すぐに電車に乗って終わりだと。あの駐車場を、例えば200メートル、300メートル離れた所に作っておけば、駅まで歩く間に商店を見るかもしれない。そうすると物を買いたくなるかもしれない。あそこに駐車場があっても電車からみたときに何の意味もなさなくて、もし友部に降りてみたいというような、電車に乗っている乗客が思うような何かがあったら、いつの日かその人が友部の駅に降りてくれるかもしれない。友部の駅は特急が止まる駅だから、たぶん内原の人も赤塚の人も友部駅に来てから東京に行くと思う。その時に、友部駅に降りてみたくなるような方策をどうしたらいいかというのを一般の方から、提案を募るような仕組みを作っていく必要があると思う。その辺りはいかがか。取り入れる仕組みというのはあるのか。

○商工観光課

まちづくりでは、外の目ということが言われますが、そういう方たちの意見というのは取り入れているつもりです。商業者の主体となるまちづくり、お住まいになっている方が主体となったまちづくりというものを進めていきたいと思っています。

特に笠間は観光のまちですので、興味のある方は沢山いると思いますし、笠間ファン倶楽部もありますので、そういうものも含めて検討して取り入れていきたいと思っています。

先ほど、ご説明の中で漏れてしまったものがあります。稲荷神社の前の門前通りの話ですが、以前は355号という国道でした。国道ですので、市で管理しているところではありませんので、市が何かをしようとすることも出来たわけでもありませんでした。しかし、ここ数年で市の管理の市道に編入されまして、それがきっかけとなり、市で門前通りをどう考えていこうかということで計画を立てました。そういった経緯で地元の方と話し合いを進行中だということで、ハード面も含めて整備をしています。

○委員

皆さんがいろいろなことを発言していますけど、私はわかりません。何を知りたいかという、市街地活性化というのは、最初に委員長が言ったように、特に駅前などは本当に寂れてきています。そこを何とかしようというのは誰もが考えていると思う。何かイベントをやろう、人を集めよう。人を集めたって寂れた駅前をただ通過して、そこに集まっているだけです。本当に駅前の空き店舗になったところを調べてください。そうすれば大変だっという結果が出てくると思う。そこから、もっとやろうっていう力がわいてくるのではないかと思う。

○委員

内原に行ってしまうている。ここの人たちは、皆内原のショッピングセンターに買物に行っている。その影響は大きい。

○商工観光課

お答えになるかどうかわかりませんが、タイトルそのものが市街地活性化と、非常に大きなもの、委員が言われるように市全体のまちづくりを考える、あるいはプランニングをここでやりなさいというタイトルに見えています。それは必ず必要だと思いますし、市全体の中でもまちづくりと市街地を、どのように捉えていくかということ、多分担当課だけではできないと思います。当然、ハード的な企画も入るし、市全体の中では都市計画部門とか、いろいろな部門が入ってくる。外郭団体では、商工会が入ってきたり、商店会も入ってきたり。そういう組織の中でまちづくりの計画を作っていくのが必要だと思います。

私どもも、中心市街地と、先ほど駅前通りと言いましたが、旧笠間市としては駅前通りを市街地として位置付けて計画をして調査をしてきたという部分の中で、市道になったということで、きっかけができたということでした。

友部の駅前についても、駅の橋上化とか整備をして、まち全体をどうしていくかという大きな構想を立てる必要があるのかなとは思っています。

調べていないと言うのは、都市計画とかそういう部分の中では区画整理や勉強会も実際はしたのですが、あまり地元の地権者が参加してくれないというのが今までの経緯でして、客の流れについても大型店舗がますます表に行っていて、小さな商店街が残っているというのを、私どもも数字のカウントではなく、把握はしています。

タイトルが市街地活性化という大きなタイトルで事業を組んでしまったので、そのようになっているというのが今の実態で、人の動きそのものは現実的に内原に、若い人たちはかなり行っているというのが実態だと思います。

○委員

まだ通じていません。本当に歩いてみたらどこの駅前でも、このお店なくなった、ここもシャッターだ。それだけでも数えられないのか。それだけでも大変なことになったと、今更じゃないと思う。お店が閉まってる、シャッターになってる。タイトルが大きいとか小さいとか関係なく、大変なことから手がけなければならないのではないか。そういうところを伺いたかった。

○委員

委員が言っていることは、商工観光課の仕事というより、行政全体としてどうするのだということ、取り組んでいないのではないかと言うことですよ。

だから行政が取り組むっていうのは、民間だったらどう利益を生むかっていう投資をするわけだけど、行政は民間とぜんぜん違う。

個店を、空き店舗をどうするとか、そこで儲けられるか儲けられないかということより、行政ができるのは、一つは強い規制をかけられること。もう一つは誘導として、例えば税

の免除とか融資とか、要するにある部分は辛くもできるし、ある部分は誘導策として民間で出来ないことができるから行政の意味があるわけです。

そういう意味で言ったときに、商工観光課ですることは、こういうイベント系のことで終わってしまうと思う。

市街地の活性化を本気で取り組んでいるところは、どう行政全体で取り組むか、そのためには何かの規制があるし、何かの誘導策があるわけです。この事業は、そのどちらでもないし、その場をすごしている施策でしかないと思う。もっと行政全体に対して、どうするのだってことを投げかけなくてはならないですね。

○委員

関係団体で、商工会、商店会、商店主との協議というか、話し合いというものが、この調書からは一切見えてこない。そういうことは必要だと思う。先程、全体の課題としているとあったが、明確にこういう会議を持ったとか、こういうように方向付けしているとか、そういう報告はないのか。

○商工観光課

調書にありませんでしたので、ご説明いたします。小さいところから言いますと、商店会に関しましては毎月定例で理事会とか、商店主の集まりということで、これから自分たちはどうして行こうかという話し合いはもちろんしています。私どもも、その場に毎回とはいいませんが、出席をしていろいろ話を聞いて、夏だから人を集めるのにイベントという話もちろんありますが、それとは別に道路をどうしていこうかという話し合いも、もちろんされています。しかし、結論はすぐにはでないので、半年、1年という経過はあります。

既存の商店会については市内全体で10団体あります。ただし、友部地区に関しては、商店会という組織がありません。岩間地区に関しましては商店連合会という団体がありますので、そこが中心になって話し合っています。そのほかNPOが入ってきたりですとか、そういったところで県の補助を使ったりとか、私どもや商工会がアドバイスというか、お話し合いをしています。

○商工観光課

市街地活性化というタイトルの中では、私どもの事業計画は、笠間地区の門前通りの活性化、それから岩間地区の駅前通りの活性化ということを抑えています。

市全体のまちづくりは必要ですし、あるいは市街地活性化というのは必要です。友部駅前の整備についても、空き店舗を含めて課題になっていることだと思います。

この事業は、スタートが二つの通りをソフト的にやろうということで始まりました。

先ほど、行政全体でやるべきだというご意見をいただきましたので、課題として捉えて

いますが、この事業については、ご理解をいただきたいと思います。

○委員

岩間と笠間は商店会がある、友部はない。だから、そこに入り込んでできないということでしょうか。

どこの駅前もそうかもしれない。友部に限らないかもしれないが、駅前の商店会は本当に古くなっているお店、後継者をどうしようかというお店がある。

まちを集合の何かにするとか、車を止められないから駅前で買い物ができないとか、そういうことを改善していこうと、これは地元の商店会の人たちだけではできないので、これこそ行政がある程度入り込んで、このまちをどうしようということをしなければならないと思う。

今日は、タイトルが違うかのようなお話があったが、このことにきちんと向き合っていてほしいと思う。お願いします。

○委員

例えば空き店舗の解消で、固定資産税を割り引くとか、新しい人を募集するなどしていないのか。

○商工観光課

改装といますか、商工会がチャリティショップといますか、仮といますか、空き店舗があったものを改装してお貸しする事業はしています。改装した部分に関しては、県の補助を活用して事業化をしまして、実際にオープンしているところとしては2店舗あります。そういった補助も必要だと思っています。

ただ、補助をするにあたっては、皆さんがまちづくりをどうしていこうかというお話し合いを、今現在、右往左往している段階ですので決まり次第、市や県の補助を活用していきたいと、数年の間には考えていきたいと思っています。

○委員

検討組織というのは、きちんと作ってあるのか。例えば、市街地活性化推進本部とか、推進委員会とか。外部の人を入れた組織は作ってあるのか。

○商工観光課

今まで、基本的には商工会を中心に、空き店舗活用といった事業をしてきたものですが、商業主さんなど外部の方を入れてお話し合いはしています。

○委員

先ほどから意見が出ているように、市役所内に推進本部などを作って対策を考えてもいいのではないかと思います。農村活性化などで定住者を募集するなど、各都道府県でもしているが、友部の交通至便の土地に魅力は大きくあると思う。税の免除とかとミックスすれば、市街地活性化事業がイベントから脱皮して、充実したものになるのではないかと思います。

○委員

商店街の集客に重きを置いた事業が出ているのだが、空き店舗の解消について、持ち主はもちろん個人なので、その個人の考え方とか意見とか、それは吸い上げているのか。いくら行政で良いことを考えても、持ち主がそれに賛同してくれなければ意味がないと思う。持ち主のニーズはどうか伺いたい。

○商工観光課

そこにお住まいになっていて空き店舗になるというのはよくあるパターンですが、奥に住んでいて表側を貸したくないというのはあります。そういう要望というのは、調査のときに、また、空き店舗になったときに、商店会だったり商工会だったり、貸していただけるかどうか確認はしています。

ただ、お住まいになっている場合がほとんどですから、簡単に貸してもらえません。それと、金銭的な問題が最終的には出てきますので、折り合いがつかないことが多々あります。その辺の認識を皆さんでお話し合いになってというのは感じています。

○委員

この件については、産業経済部だけの問題ではないので。

○事務局

事務局の方から、説明したいと思います。

今まさに議論されているように笠間市内では、空き店舗だけでなく空き家はかなり多い状況です。旧笠間でも、スーパーの跡地が大きく空いていたり、友部地区におきましても駅前にはかなりの空き店舗があるという状況は私どもも把握はしています。

これについては、実は企画政策課、都市計画課でいろいろな議論をし、地域住民の、友部でしたら友部駅周辺の区長さんを集めて相談はしているところです。ただ、現実的にはかなり高齢化している中で、市が何かを示してほしい、我々だけでは考えられないというのが大半です。

友部地区だけではなく、どこにいても、そのような話が多い状況です。例えば、友部駅前でしたら、まず20メートルぐらいの道路を造るなど、基盤整備をやらなければならないのですが、それには地域の人が私の代で移動はいやだというような状況です。

しかし、空洞化しているものを何とかしなければならぬということで、現在、企画政

策課で笠間市の定住化対策ということで、組織を作って動いているところです。

商工観光課はソフト事業の部分の扱っているところですが、全体的には委員会組織を作りながら、進めているところです。今の人口が増えるということはなかなか難しい中で、今の人口が保てれば成功かなという状況です。

それから、駅前に商店街ができるのかどうなのかは、これからは駅前は住まいになるのかなと地域の皆さんと話している中では、そういうことも含めまして、動いているところですので、ご理解をいただきたいと思います。

○委員

駅前の姿がどうも寂しくなってしまう。駅前に駐車場だけになってしまう。

○事務局

駅前については、JRと駅前広場の活性化についてやり取りはしています。ただ、何が良いかというのは、なかなか浮かばないです。あそこに大きなものを作ってしまうと、周りにお店との整合性、バランスも難しいものですから。動いてはいますが、表面化していないというだけです。実際は、いろいろ議論はしているところです。

○委員

駅前の駐車場のことですが、2日から3日前に、友部駅前交番の改築についての説明会があり、区長が集まったが、その中の話題で駅前の駐車場が広々とできたものだから、非常に困っていると。何が困っているかという、暴走族であったり、若者であったり、夜遅くまでわいわい騒ぐ連中が集まるようになってしまっ、何のために広場ができたのかと。

そこを何とかしてほしいという地元の区長さんから要望が出ていました。ぜひ駅前に違う活用の仕方をお願いしたいと思います。

○商工観光課

空き店舗の状況を一部ですけれども加えさせていただきました。冊子がありますので、あとでご覧いただければと思います。笠間地区のものです。

○委員

こういうのは、どこでも作れるでしょう。

○事務局

企画政策課で調べている途中ですが、参考までに友部地区で小売店舗が33件、笠間地区で115件、岩間地区で20件ぐらいの小売店舗が空き店舗になっているようです。そ

の他に売り地の看板があるのも友部地区で12件、笠間地区で8件、岩間地区で1件があるような状況です。工場などについても友部地区で3工場、笠間地区で5工場、岩間地区で4工場が現在営業していないとなっています。これは今調べている途中です。まだ、細かな聞き取りもしていませんので、外見上見た中で空いているなどと思われるのが、このくらいの数になっているようです。精度はあまり高くありませんが、現在調べている中でこのような状況です。

○委員

この地図で、門前通りに何店舗あって、16店舗が空き店舗ということですね。

○商工観光課

一番小さい単位で商店会、商店街というのがありますが、そういうところの把握はしています。概数ですが、今の地図の範囲で、門前通り商店街というのは複雑な形をしています。この地図でいいますと、門前通りと大町、荒町という3つの商店会が重なっている部分です。

この部分に関しては70店舗とか、そのくらいの数はあると思うのですが、空き店舗という概念が、本人が持っている概念がいろいろでして、例えば車庫に使っているパターンがありますので、数字そのものは変わってくる部分があります。

○委員

概念とか細かいことじゃなくて、最初に空き店舗が何店舗あるのかっていう質問状を出しているわけですよ。今の企画政策課ですか、データが今発表されているが、こういうことを説明するときの必要な資料として当然揃えておいていただきたい。

それに市の中で、自分のところになければならないと言っているのではなく、手を伸ばして探していただきたい。

【評価】

○委員長

全員が「改善し、継続」です。ただ、厳しい意見が書いてありました。もっと真剣にやってほしいと。行政として取り組まなければならない課題であることを再認識して継続してほしいというのが意見です。